

中が困難と併つては勿論である。斯かる困難打ち勝ち得るものがある。即時五才米本費削減である。

青柳君(京橋)。個人としては反対しないが、工場に在る組合員の見方時、彼等は何か考へてゐるか考へなければならぬ。又、他の支部の情勢を見る時、秋口は徳上に反対である。

村松君(本郷)。個人も本郷支部に賛成だが、知は本郷支部の意見と代表と述べてる。本支部は創立後まだ日が浅い。けれど、ともすれば、秋口の活動が資金の不足のために不活動となる事情を認め、然るに本郷支部は全組合を挙げて本費削減である。(拍手)

杉本君(本郷)。個人としては賛成であるが、本郷地方の一般情勢に鑑みて、又、組合員、實際の考へを思ふと本案に絶対反対である。

工場幹部が組織する御用反動団体があつて、月五才の会費で反動的教育をやつてゐる。此れに反対してゆくことは非常に困難である。それにもかかわらず、石川島造船所ではスノト以前に労働組合の幹部が組合の金を消費したことが、関係上、会費の値上げは一紙の者に疑念の眼を以てかられる。又、現在増額すれば組合員が減少する。以上によつて本案には絶対反対である。田口君(北豊島)。此の向題の討論は最早理論としては盡きてゐる。四田の情勢を觀察して、組合員が減少せぬかどうかと、實際如何考慮が必要である。秋が北豊島支部としては既に昨年の六月から五才米徴集を實行してゐる。此の時計工時代に付つた五才米値上げによつて組合員が減少するだらうと心配したか、その結果は却つて、此れが福島の過半数か

日本の労働者間に於ては未だ小カレルの理想が盛んである。その結果、三才米の会費も、七才米も増える。これは三才米が惜しいからである。此れをためて小カレルにしようとしてゐるものである。かゝる情勢の下にある大会が実現する時、即時五才米増額には反対せざるを得ない。

西山君(京橋)。本案の趣意には個人として賛成であるが、現在の支部の情勢時に石川島工場内部の情勢を自覚して、どうして支好せざるを得ない。京橋支部の中心は石川島造船所であるが、この中で組合員は全従業員数の三分の一である。しかも、この三分の一の組合員が組織するために、如何程然等日苦闘したか知れない。残された本組織者と如何にして獲得するかの、大問題である。然るに石川島は

つたことを立証した。しかし会費の値上げが未だ組織労働者を組織する上に於ける困難は充分察する事が出来る。故に即時五才米を實行せず、既に組織された組合員の減少といふ点では懸念するべき理由があると思ふ。又、此會費値上げ困難を苦痛を抱してゐる所の組合員の小カレル的勸告は、教育の近くない結果であるが、これは今後教育運動に努力することに依つて、降かれると思ふ。然るに既に実行してゐるので、即時実行は出来ぬ。然るに、未組織労働者に対する組合員も、併し本案が可決せられれば、減少する組合員を整理し、こめて行くより外はないと思ふ。